

タクシー駐停車マナー改善ナッジ

「いけす看板」で違法駐停車時間が9割減少！

TAXI

NTT DATA

× 京都市
CITY OF KYOTO

株式会社NTTデータ経営研究所

【応募代表者】 株式会社NTTデータ経営研究所 小林健太郎
【実施フィールド】 京都市



背景・問題

- 京都市内有数の繁華街である四条通では、タクシーによる交差点・横断歩道付近での違法な客待ち駐停車が多く発生
- 渋滞を引き起しおしたり、近隣バス停における発着の妨げに



課題分析

- 京都市はこれまでタクシー乗務員向けの啓発活動を継続的に実施し、アンケート調査では意識の向上がみられていたが、違法な客待ち停車は無くならなかった。そこで、乗務員の主なボトルネックは次の2点と想定
 - ①啓発、規範意識への訴えかけを行うタイミングと問題行動発生のタイミングに乖離がある
 - ②違法だと分かっていても、利用者が多くメリットが大きいため、損得計算の結果停車してしまう
- 利用者が違法停車タクシーを利用してしまう理由については以下2点と想定
 - ①交差点・横断歩道付近でタクシーを止める・乗ることが違法だと意識していない
 - ②正規のタクシー乗り場が近くにあることを知らない/乗り場までの距離・時間がわからぬため、損得計算が正確に行えない発着の妨げに

実施したナッジ → 違法な客待ち停車の頻発地点である四条河原町交差点南東角付近に看板を設置

- 看板の表裏を使い、1つのナッジで2つの対象（乗務員、利用者）へ働きかけ
- 利用者の行動の変化が、乗務員の行動へ波及する設計

【乗務員側】人の視線を感じることで規範的行動が促進される事例をふまえ、目のイラスト、「みんな見てますよ」の文言、実際の歩行者の視線を感じる窓を設置

【利用者側】目の前のタクシーは違法停車であることを明示、タクシー乗り場までの所要時間を記載

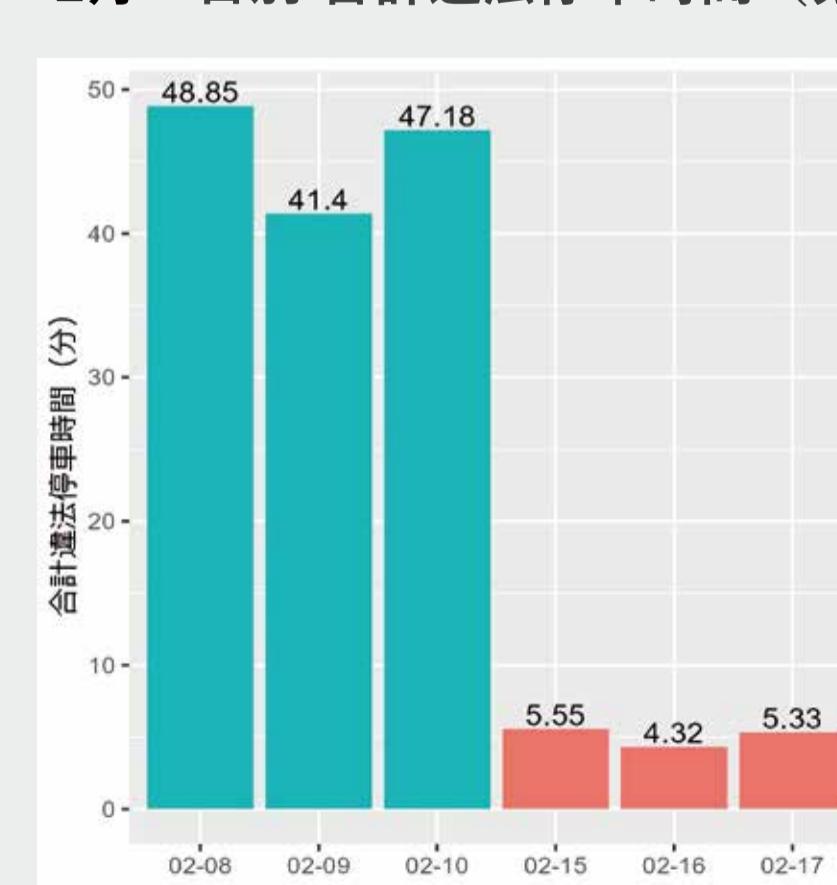


効果検証方法・結果

手法	前後比較
効果検証方法	指標：1日(2時間)あたりの合計違法停車時間
指標測定方法	京都市職員が現地で記録
測定期間	右図に記載

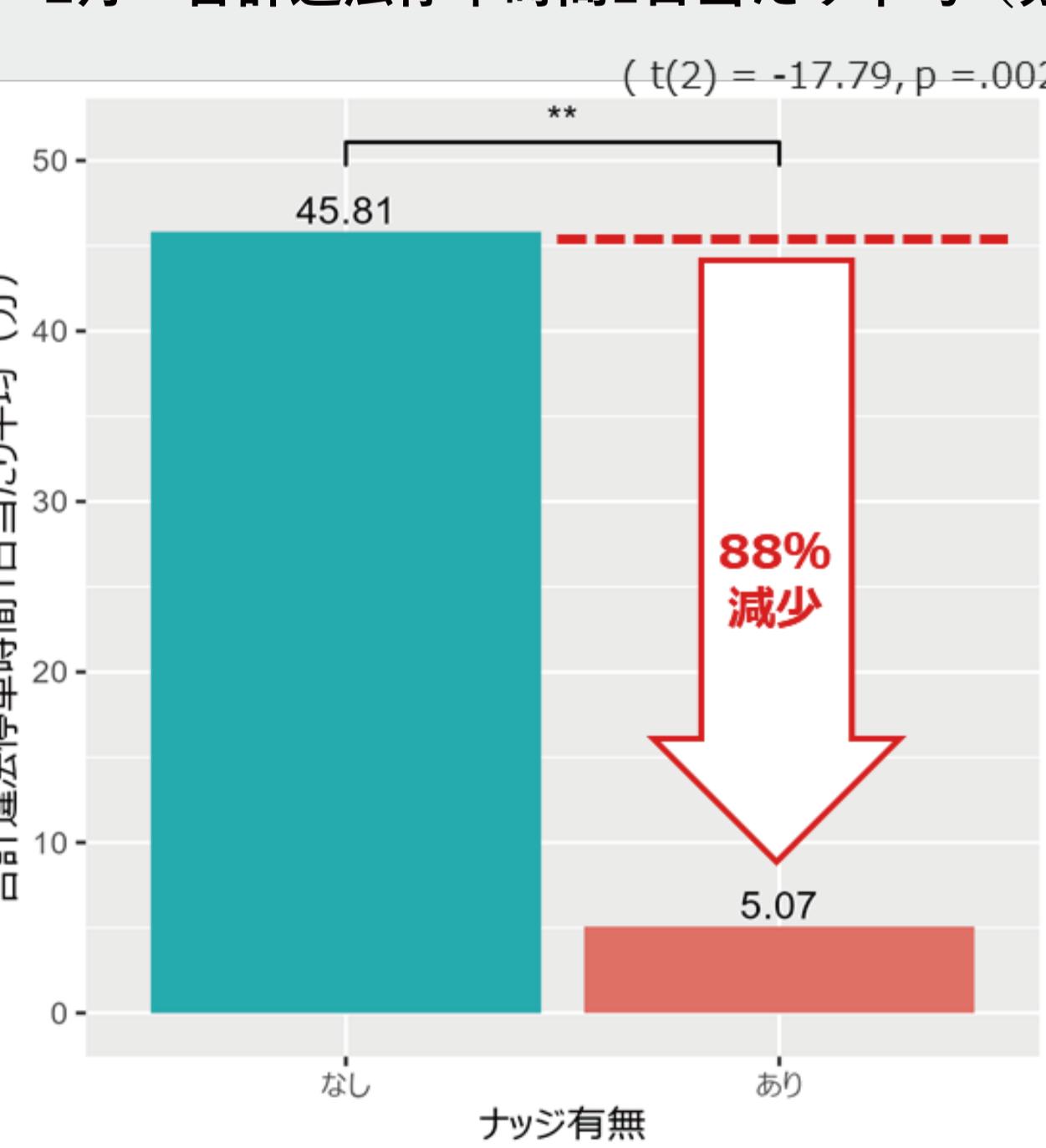
看板設置前に比べ、設置後では、1日(2時間)あたりの合計違法停車時間が約9割減少。t検定を実施したところ、1%水準で有意な差が確認された。

また、10/25～27に追加で測定、効果検証を行ったところ、違法停車時間は、看板設置前に比べ7割少なく、一定の効果維持が確認できた。

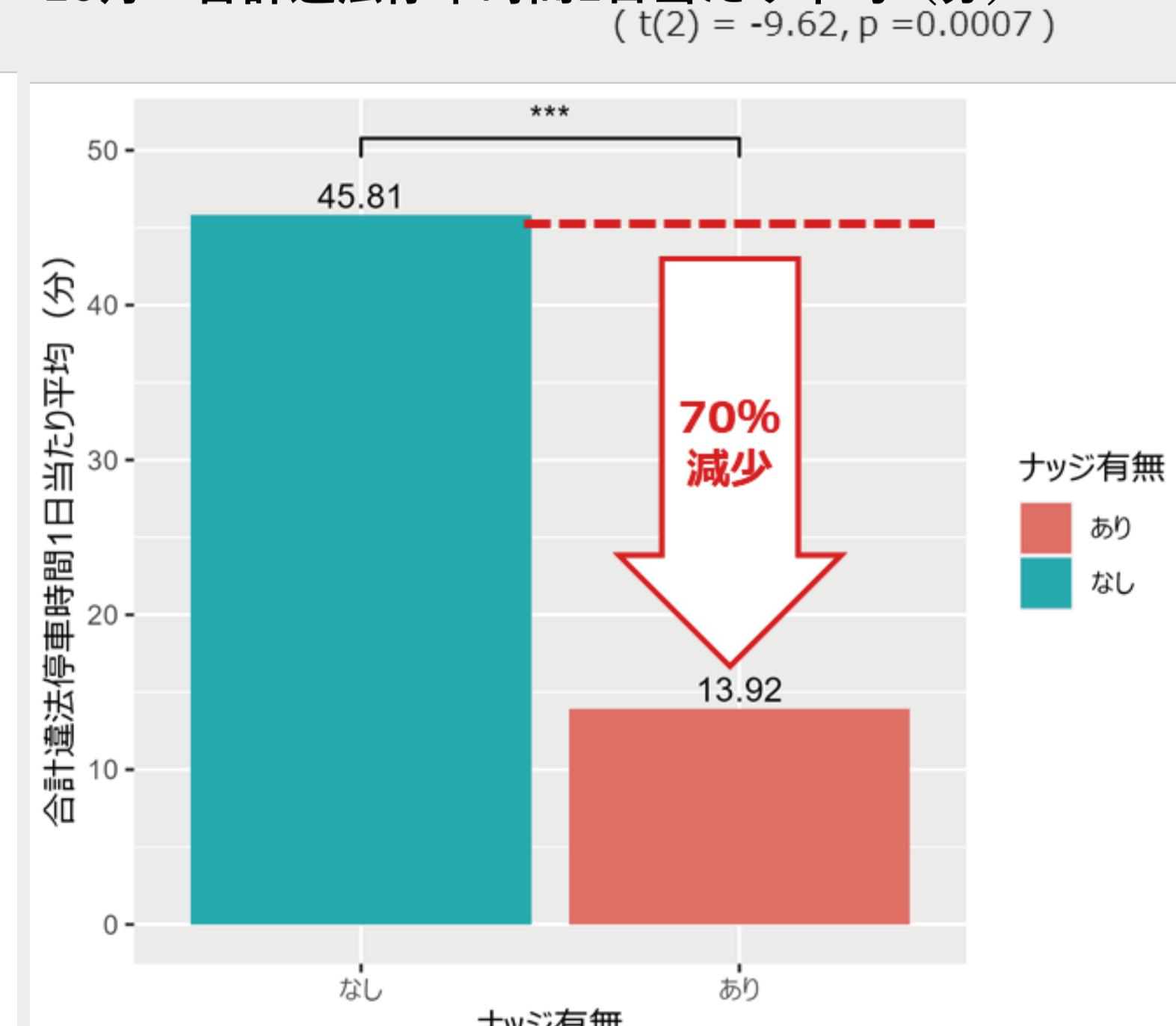


測定期間	
介入前	令和4年02月08日(火)～10日(木) 午後2時～午後4時
介入直後	令和4年02月15日(火)～17日(木) 午後2時～午後4時
介入8か月後	令和4年10月25日(火)～27日(木) 午後2時～午後4時

2月 合計違法停車時間1日当たり平均 (分)



10月 合計違法停車時間1日当たり平均 (分)



結論・考察

事前の想定を超える大きな効果を生むことが出来た。利用者の視線の活用や、2つの対象へ働きかける仕掛けがこの効果の大きさに寄与しているのではないか。
また、馴化による効果の減衰を予測していたが、一定程度の効果が維持されていた。対象者が日々変わる利用者向けのナッジや、SNSで話題となつたことが要因か。
市職員による現地測定のため、夜間等の実態が把握できていないことが課題。

参考資料



NTTデータ経営研究所
実証結果プレスリリース

Wedge ONLINE
社会の困ったに寄り添う行動経済学「タクシーの違法客待ちを減らすには？」

